

***** 目次 *****

P1 今号の TOPICS	宮澤 富美雄
P2 仲間たちの近況報告 (1)	
1 班	鶴 敏子
2 班	清水 忠
P3 仲間たちの近況報告 (2)	
3 班	濱田 嵯智子
4 班	吉村 正克
P4 リレー随筆	玉尾 ひとみ
P4 私の玉手箱	竹谷 律一
P5 自由コーナー	宮阪 信次
P6 記念俳句・川柳・カルタ大会(1)	
P7 記念俳句・川柳・カルタ大会(2)	
P8 写真コーナー	大庭 健
P9 樹形ウォッチング	遊上 真一
P10 絵画コーナー	岩城 正大
//	藤原 雄平
//	石川 隆一
俳句・川柳	山上 恵子
//	吉村 正克

◇自然と文化だより◇

本誌も 40 号を迎えることが出来ました。
年 4 回の発行ですから 10 年間継続したこと
になります。

今回は記念号として「俳句・川柳・カルタ
大会」を開催し、科員の半数を超える人から
130 あまりの作品を得ることが出来まし
た。これを機会に俳句・川柳に目覚める人が
でたり、植物カルタの作成もできればより有
意義なところみになるのではと思います。

来期からは広報専任幹事を玉尾洋一さんに
引き継ぐことになりました。ホームページも
新しくなる予定で、本誌も新しい発展をする
ことと思います。3 年間ご協力有難うござい
ました。 NA

今号の TOPICS～2 年間をふりかえって～

さらなる進化・発展を

代表 宮澤 富美雄

入科時の目算が狂い、1 年目から班長→幹事→専任幹事→
代表と続けました。やはり長かった 6 年でした。代表時代に
は、運営が少し強引すぎたかな、と反省する点もありますが、
科員の方々に暖かいご協力をいただき、大過なく終わること
ができ、ホッとしています。「科員としての一定の義務」も果
たせたかな、と考えています。

それにしても、ある人から言われた『科員には義務がある』
という言葉は、私にとってはうまい殺し文句でした。
代表の 2 年間においては、役員任期の延長、班長を役員に含
めること、委員会幹事の互選、総務委員会の昼休み開催、総
会・オリエンテーション開催時間の変更など、いくつか取り
組みをさせていただきましたが、これらの評価は今後に待ち
たいと思います。

代表任期中で残念だったことは、2 年間に 3 件の傷害事故
があったこと。特に自然観察においては、「無理は禁物」で、
より慎重な行動をお願いしたいと思います。

さて、当科が今後継続し、いっそう進化・発展していくため
には何が必要か、を考えてみたいと思います。

組織には「変えてはいけないこと」と「変えた方がよいこと」
があると思います。今の当科に喫緊の問題があるとは思いま
せんが、今後のことを考えた時に検討しなくてはならない課
題がいくつかあると思います。

◆「入科条件＝高等科卒」はこのままでいいのか

これについては 2016 年の「中期ビジョン検討会議」で検
討され、その時点においては「変更する必要なし」となりまし
たが、その後、本科が少人数・高齢化し始めていること、授業
内容に変更があることなど、急速に環境が変わりつつありま
す。早めに再検討したほうがいいのではないのでしょうか。

◆「班と委員会」という組織は今のままでいいか。

これは代表在任中にいつも考えていたことです。所属委員
会の固定化、委員数の偏りなどが気になります。もっと簡便
な組織にできないものかな、と思います。

◆「箕面公開観察会」のコース

前記のように、本科の少人数・高齢化を考えると、もう少し
楽で危険性の少ないコースに変更する時がきたのではないかと
考えます。



我が家のベランダ園芸は？

1 班 鶴 敏子

実生から育った植物が我が家のベランダを彩っています。観察会から帰宅し、ポシエットをベランダのプランターで振るだけなのです。本人は植えたつもりもなく何年か経過し、何かの芽生えがあると大事に水やりをするだけなのです。

工作の支援を引き受けると無駄になった植物の種が残ります。其れもプランターで振るだけです。その種類は、クヌギ・タンキリマメ・ナンテン・ウバメガシ・ナンキンハゼ・モミジ・トウカエデ・ロウバイ・ツバキ等々。

以前すくすく伸びる木があり観察をすると、白い花が咲いていました。西表島で見たギンネムですが、全く記憶がありません。

渡辺先生にお聞きしますと、そのうち枯れるでしょうと。しかし毎年けなげに花を咲かせます。生態系破壊につながるといけないので、豆の鞘は摘んでは焼却しています。



ナンキンハゼだと思っていた木に「黄色い花が咲いている」と叫ぶ声に慌ててベランダに出てみると、なんとオクラのような花が咲いているではありませんか。それこそ高等科時代「成が島」で足が痛くて一人寂しく待っていた時、私を慰めてくれた「ハマボウ」の花だったのです。何年かかって花を咲かせたのでしょう。



その他には鉢底石の代わりに敷いた「オニグルミ」が発芽し、冬には手近な冬芽観察の材料になっています。

今年は嬉しい事に何年か前に埋めた「ツバキ」が2輪咲きました。以前の花と違って元の花に戻っているようですが、やっとベランダに春がきました。



わたしのフィールドワーク

2 班 清水 忠

大阪府の北に位置する我が町は、森林の96%が私有林で地権者の高齢化により人の手が入っていない自然が残っている。

町の観光協会と教育委員会が地権者の許可を得て、原野にもどりつつある土地を整備するためにボランティアを募集していた。活動の趣旨は①光ケ谷の自然・財産を次の世代に繋ぐ。②「トンボ池(ピオトープ)づくり」をして、新しい町の「顔」づくりに取り組む。③自然環境の保全・復元を通して、児童たちの多様な体験の場とする。④地域のコミュニティの場とする。⑤町の観光資源としてチャレンジしていきたい。

これらの趣旨に賛同して、私は応募した。14名（このうち女性5名）の応募者があり、活動地の現場説明があった。緩やかな谷間に5反（1500坪）の水田があり、この水田は太閤地検で決められた12枚の歴史のある田圃である。放置されているので雑草（イグサ、スズメノテッポウ、セリ、コオニタビラコ、タガラシ、ササ、スゲ類等）が繁茂しており、この先の作業の困難が予測された。会の運営の基本的組織の構築から始まり、三役選出、会則と年会費を決め、活動の趣旨の下で開始した。この奥には同じ広さの住居跡の敷地があり、エノキ、エドヒガン、ウワミズザクラ、ヤブデマリ、ウツギ類が群生し、つる植物が絡み鬱蒼とした森林帯になっている。また竹林が繁衍し処理に試行錯誤した。竹は田圃の畦の補強材とし、水は谷から流れる源水のため水路のパイプに活用して年中渇水の無いよう工夫した。周りにカラスザンショウの樹があり、畦にヒガンバナ、フジバカマを植えアゲハチョウ類を誘引できると期待した。フジバカマにはアサギマダラが飛来、アゲハチョウ類も観ることができた。森にはシジュウカラ、ヤマガラ、オオルリ、ウグイス等が囀り、アカゲラのタッピングの音が響き渡る。クヌギの大木の洞にフクロウが巣をつくり、2羽の幼鳥が巣だっで行った。この様なフィールドで豊かな自然を体験している。

課題として、この場所に平安中期に住居があったと言われているため、この形跡を探求していきたいと思う。

新しい扉を開いて

3班 濱田 嵯智子

「歩ける」ということは本当にありがたい！

2年前の2月に左膝、同10月に右股関節、翌年の2月に右膝と1年の内に3か所も人工関節手術を受けた今、正座こそできないがほぼ通常の生活を送れている。

年明け早々、1月13日～19日まで、中野穂積さんの「ルンアルンプロジェクト支援継続17周年企画」で、タイ北部山岳地帯の少数民族（ラフ族・アカ族）の村に行ってきた。コーヒー豆の収穫と、ヒマラヤザクラの花見が目的である。

麻薬撲滅のため、ケシ栽培からコーヒー栽培への啓蒙・指導のプロジェクトで、私が初めて参加したのは2012年であった。そのころの山は焼畑の後放置され、土がむき出しの状態であった。

斜面に穴をあけて苗を植えていくのだが、本当にこれが育つのかと半信半疑だった。しかし、雨季を経、乾季にも朝の霧で水分を得た苗はすくすく育ち、たわわに実を实らせていた。尾根筋に植えたヒマラヤザクラも大きく伸び、わずか数輪だけだったが、真っ青な空に濃いピンクの花を見た時は体全体が感動に包まれた。1200mを越える厳しい環境で生き抜いた命の結晶のように思え、その生命の開花に出会えた幸せをかみしめた。

斜面でのコーヒー豆摘みは、片手でコーヒーの枝をつかみ、足もとを確保しながらの大変な作業だった。しかし、現地のスタッフは楽しそうに歌を歌い、収穫の喜びをのびやかに表していた。

電気もガスも水道もない村の、高床式の板壁からもれる月光に照らされ、「月明かり」や「漆黒の闇」をこごえながら体験した一夜。文明と引き換えに忘れ去り、失ってしまった大切な何かがまだそこに生きる人たちの中にあるように思った。

「歩ければこそ」今年は6回目の亥年。これからも新しい扉を開けて未知の世界へ向かって歩き続けようと思う。



斜面でのコーヒー摘み



ヒマラヤザクラ

現之証拠

4班 吉村 正克

2017年度に自然と文化科に入科し、早や、2年を過ぎようとしています、一番の劣等生だと認識するものの、今までの記憶しない習慣が災いし、なかなか、レベルアップの難しさを痛感している昨今です。

ゲンノショウコは、入科1年目に所属した調査委員会から「武田尾の草花100選」作りのお手伝いとしていただいた1つの命題でした。ところが、不幸にも、その春に「前立腺癌」を告知され、肝心の開花の季節に手術を受けることになりました。

8月頃、「六甲山に行けば、なんぼでも咲いているよ」との助言も耳にしながら、行くこともなく、焦る思いで「陽春園」に電話したところ、手に入るとの話で、赤花、白花の両方の苗を購入し、現地に行けなかった分、家で観察を始めました。



かけるように咲きました。花が終わると、実が

成るのですが、さく果（熟すると下部が裂け、種子が散布される果実）とは知らず、種が撥ねた後



の羽根の部分
が特徴かと、
詳しく写真を
撮ってしまし

た。ところが、それは、種を弾き飛ばした後だとわかり、植木鉢の周りを探すと、弾いた種が散乱していました。

採取した種を大切に保存し、春に植え付けたのですが、いっこうに、うまく育たなかったのですが、ある日、昨年買った苗の足元近くに、なんと、新しい芽が出て、元気に育っていることに気付き、私の努力は何だったのかなあ？と嘆いた次第です。これぞ、「現之証拠」でしょうかね。

自然の逞しさに感心すると共に、新しい苗がうまく育つように、今後、大切に見守りたいと思っています。



遠野物語の風景

4 班 玉尾 ひとみ

関西生まれの私にとって東北は、線路のずっとずっと先にある遠い世界、異郷なのになぜか懐かしく憧れだった。特に心惹かれていたのは岩手県遠野村。子供の頃読んだ柳田國男の遠野物語の風景を見たいと思ったからだ。もちろん読んだのは原文ではなく絵本だったけれど。誰もが読んだこととはなくても聞いたことはあるのではないだろうか？オシラサマやザシキワラシの民話を。

しかし年月というのは恐ろしいもので、多忙なままに時を過ごすうち遠野のことはすっかり忘れてしまっていた。東北に行く機会が何度もあったのに一度も足を向けていない。それが昨年末、岩手県の花巻温泉に行った折、意外にも遠野に近いと知って一気に憧憬がよみがえった。花巻は宮沢賢治の故郷であり賢治一色の町だ。代表作の「銀河鉄道の夜」の舞台は、岩手軽便鉄道沿いの風景をモデルに描かれているという。現在の JR 釜石線だ。観光列車 SL 銀河も走っている。その釜石線に乗って花巻から遠野まで出かけることにした。各駅停車でほぼ 1 時間、遠野は花巻と釜石の中間地点にある内陸の街だ。遠野博物館で知識を仕入れることにする。江戸期は遠野南部氏の城下町として商業で賑わったが、山里の暮らしは寒冷地の為稲作はふるわず、馬が農家の宝として貴重な存在であった。人と馬が同じ屋根の下で暮らす遠野独自の家屋建築、南部曲家は有名だ。馬との深い関りはこの地方のオシラサマ伝説を生んだ。馬に恋した農家の娘が馬と夫婦になった。それを知った父親は馬の首を切り落としてしまう。娘は馬の首とともに天に昇り神になった。遠野物語を詳しく知るには「とおの物語の館」に行ってみるといい。映像ライブラリーありシアターありで大人も子供も民話の世界にひきこまれるだろう。私はオシラサマの人形が欲しくてあちこち探したが見つからなかった。神様だからだろうか？オシラサマは、30 センチほどの棒に着物を着せた首のない男女一対の像が多いらしいが、その他にも馬頭型と姫頭型の取り合わせなどもあるそうだ。今も養蚕の神、農耕の神として信仰されている。

今回は時間がなくて駅の周辺しか回れなかった。次回は農家の暮らしを再現した伝承園や遠野ふるさと村を訪ねてみよう！見たかったものを一つ残す、それが次回につながる旅の楽しみだから。

玉手箱の中身

4 班 竹谷 律一

想えば随分と日が経ちました。広報を担当してこの「自然と文化だより」の 11 号から 24 号までを編集させて頂きました。9 号から始まった「私の玉手箱」の 1 番バッテリーで「糸鋸アート 事始め」と題して書かせても頂きました。今回は 40 号との事。広報は人数も少なくまた地味な仕事ではありますがここまで続いて来ると、広報 OB の最前線かも知れませんがこの全員参加の「たより」は自然と文化科の思い出集とも活動記録とも言えるシニア世代の文化遺産の様な気がします(笑)。

中でもこのコラム、各人の秘めたる宝物を垣間見る事でその人の隠れた人格なり価値観なりをじっくりと見つめる事が出来ます。日頃のお付き合いのある種、深い部分での繋がりとか共有部分として絆の様なものさえ感じることがあります。この意味からもこのコラム、自然と文化科が永遠であればコラムも永遠に続けて頂きたいと思います。

シニア自然大学校に入って 10 年になります。その少し前からチェロを習い始めました。こちらは 13 年にもなります。毎年発表会も既に古狸となっています。グノー・バッハのアヴェマリア、ブラーグの天使のセレナーデ、G 線上のアリア、シューベルトの鱒、シューマンのトロイメライ等を弾きました。大失敗の年もありました。

昨年秋に京都コンサートホールで行われたドボルザークのチェロ協奏曲を聴きに行った折、夕飯



を近くの蕎麦屋さんで済ませて外に出た時、何とその日の主役であるミッシェル・マイスキーに道路でバッタリ遭遇！目が点になり思わず Mischa！と声を掛けました。笑顔で家内のスマホに Two-shot！ステージに現れた

彼を見るともう丸で親しい幼友達が現れたような感じ！彼の T シャツに曰く、Never Underestimate an Old Man with Cello. 「チェロ弾く老人を舐めるなよ！」世界の名演奏家を誰が舐めますか！この写真が今「私の玉手箱」の主賓です。どちらも 1948 年生まれ！

私事、本年をもちまして自然と文化科を休部させて頂く事にしました。長年ほんとうに有難うございました。

「ピンピンコロリPPK」は難しい？

4 班 宮阪 信次

(はじめに)

私は宝塚大学看護学部で、福祉情報技術、統計学入門などを非常勤講師として、十年以上、千人以上の若い将来の看護師さんたちに囲まれて、学んできたともいえる。「福祉情報」では、高齢者が活き活きと生活できるような情報技術・ネットワークや高齢者に使いやすい福祉機器・システムを取り上げている。昨年、後期高齢者になり、人生の終末について苦慮している。

(PPKとは)

ピンピンコロリとは、健康寿命の長さを言い表した表現で、「病気に苦しむことなく、元気に長生きし、最後は寝付かずにコロリと死ぬこと、または、そのように死のう」という標語。略して PPK という。対義語として、寝たきりで長く生きるという、ネンネンコロリ (NNK) がある。この言葉は、1979 年に長野県体育学会における発表論文に登場したのがその由来とされている。私の目標は勿論「PPK」だ。

(健康寿命と平均寿命)

日本は世界でも指折りの長寿国として知られている。しかし、その実態は、最期まで元気に活動して天寿をまっとうするピンピンコロリ (PPK) は少なく、男性は平均 9 年、女性は同 12 年も介護された末に死んでいくという、ネンネンコロリ (NNK) が他国に比べて際立って多い「不健康長寿国」なのです。



長期間介護のお世話になるかもしれないということです。寝たきりになった原因について、厚生労働省「平成 25 年国民生活基礎調査」によると、(1) 脳血管疾患 (18.5%)、(2) 認知症 (15.8%)、(3) 高齢による衰弱 (13.4%) だそうです。寝たきりになって、約 10 年間介護されたくないですね。

(健康寿命を延ばす 10 の習慣について)

「健康寿命伸ばす 10 の習慣」(順天堂大学白澤

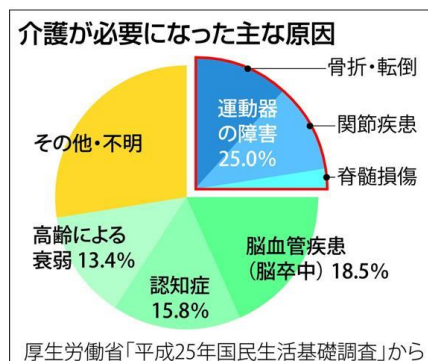
卓二教授) がありました。これらの生活習慣をクラスター分類すると、

- (1) カロリーコントロール (①から⑥)
- (2) 運動 (⑦)
- (3) 前向きな考え方 (⑧, ⑨, ⑩)

常識的な、実行可能性のある、10 の生活習慣ともいえます。



「平成 25 年国民生活基礎調査」の寝たきりになる原因をクラスター分析結果で見直すと、運動(骨折・転倒、関節疾患、脊髄損傷)が 25%になり、第一位の主原因になる。



(健康寿命を延ばして、PPKを達成)

私はクラスターの中で、「前向きな考え方」(⑧情報をアウトプットする、⑨ストレスは毎日解消する、⑩今日の自分を記録する)を持続するのが難しいと評価しています。多くの高齢者は、人間関係が薄れ、友人が少なくなり、社会との接点を取りもちする手段に欠けている。ICT (情報通信技術) インターネット・SNSが不可欠な手段といえます。

(まとめ)

曽野綾子「老いの才覚」では、高齢者は孤独に耐え、その中で自分を発見し、「自立と自律」することだそうです。

みなさんは、「PPK」それとも「NNK」!

【 俳句 】

1. 杉玉や 酒の香漂う 春隣
2. 関の宿 いにしへ漂う 風のどか
3. 冬枯れに 萌芽と紛ふ ウスタビガ
4. 冬の池 カワウ羽干し 誇らしげ
5. 関の店（たな） 呼び込む主は お雛さま
6. 寒空に 歴女佇む 心月院
7. 冬木立 ヤマコウバシの 土の色
8. 雨上がり 木漏れ日浴びて 光る冬の芽
9. 南紀路は 青いキャンパス みかん山
10. 愛宕山 水尾の分かれ 冬になり
11. 不安増す 薄い踏み跡 銀世界
12. 秋日和 落葉に消えし 登山道
13. 水鳥も 水涸れ知ってる 山田池
14. 二つ三つ 白梅開花 阿弥陀堂
15. 日差し浴び ぐんと伸びだす 冬芽かな
16. その昔 鉄路の通る 冬芽かな
17. 春の雪 枯れ木に丸き 雀2羽
18. 書き初めの 手に息吹きかけて 墨をする
19. 風花の 天満宮に 紅梅一輪
20. アオサギの 翼の青に におう梅 （山田池公園）
21. 蠟梅や 前で二人の 庭白慢 （山田池公園）
22. ひそやかに 蠟梅の香 春はそこまで
23. 寒空に 春はまだかと 梅に聴く
24. 冬芽にも 陽ざしかがやき 山のはる
25. 寒空に 目立つヤドリギ 枝垂れる
26. 冬ざれや 薄紅を差す 寒葵
27. ウィスキー 眠る次郎と 春を待ち
（三田 白洲次郎の墓にウィスキーが何本も供えられていたのを見て）
28. 早朝の 空にかがやく 星ひとつ
29. あさまだき サイレンの音 なりひびく
30. 寒風に 冴えわたる空に みいる我
31. 冬芽観て 春咲く花に 胸躍る
32. 飛火野に トキワハゼ一輪 春をまつ
33. 飛火野の 自然を守る ルリセンチ
34. L サイズ 毛糸のパンツ オオモミジ
35. 廃線路 断捨離中や 冬木の芽
36. 凍てる日も ぐんぐん母漕ぐ 子に乗せて
37. 寄り添うは 歯ブラシだけね 二月尽
38. 関宿の 町家を飾る 夫婦雛
39. 粉雪舞う 三田（さんだ）の寺で 涅槃図観る
40. 雪残る 愛宕の山路 友と登る
41. イヌフグリ、こぼれるように、咲き乱れ。
42. 環濠の 水もぬるむか 雛の里
43. 武田尾に うぐいす鳴けど 花はなし

44. 観察会 梅したたかに シニア呼び
45. めじろ舞い 梅はなゆれて マスク取る
46. 鏡で見る イソシギの様に 水ぬるむ
（冬鳥観察会で甲子園浜にいき、望遠鏡でみたイソシギのかわいらしさを読みました）
47. 寒空に 枯れ葉ひらひら 小鳥のごとく
48. 小雪舞う 落ち葉の中に 節分草
49. ザイフリボク 芽鱗にちらり 白毛覗かし
50. 春の尾根 葉脱ぎ体くねるは ネジキかな
51. 寺町の 朝や目覚めた マンサクちぢれ花
52. 孫の手や 眺めて不思議 落椿(おちつばき)
53. 木蓮の花 色合わせし 孫遊ぶ
54. 冬晴れに 碧（みどり）輝く 三田磁器
55. 梅香り アオサギ八羽 山田池
56. センダンの なんと冬芽は サルの顔
57. 冬芽みて 悪魔みたいな ハリエンジュ
58. 手に息を ルーペに花芽 冬芽観る
59. 星空の しんと浮かぶや 沈丁花
60. 公園で ロックの梅酒 思い出し
61. 山のぼる 鶯なくや ここかしこ

【 川柳 】

101. 右みやげ 左みやげの 道しるべ
102. あの花は？聞いたばかりをもう忘れ
103. 上に下 むち打ち気にしつ 観察会
104. 末永い 余生を照らす 自然と文化
105. 粘土こね ぐい呑み作る 八十路かな
106. 山田池「何が」いたの？」と尋ねられ、「カモがいたかも？」と寒いシャレ
107. 冬空に吐く息白く トンネルを通り抜ける時 春待ち遠し
108. 「この木何だ？」「あの草何だ？」皆忘れ、何年経っても元の木阿弥
109. 白洲次郎 九鬼一族を 垣間見る ぶらりよかよか 三田を歩く
110. 子ども期に 腺点知れば 今頃は ノーベル賞かな 微差は大差よ
111. シニアと言われ 死んでたまるか 生きてやる
112. ラッシュアワー 大きなリュックに 身が縮む（山田池公園へ向かう電車内にて）
113. 「おばあさん 席をどうぞ！」で睨まれる（クロスパル高槻から帰りの電車内にて）
114. お弁当 家庭の事情が 垣間見え（三田青磁体験会場での昼食時）
115. 観察が 終わればすぐに 主婦目線
116. 今日もまた 嘘を重ねる 安倍内閣

117. 長居して 御いとま乞うや 自然と文化
 118. 心地よさ 中くらいなり 自然と文化
 119. さよならと 自然と文化に そっと告げ
 120. 呑みすぎて 女房にしかられ 反省会
 121. 冬山椒 翼・良〜く見よと 講師説く
 122. 植物に 遊び心か 狂い咲き
 123. 山茶花に 凜と胸はる 寒椿
 124. 年取って 友との学び ボケ防止
 125. 孫の世話 自分の幼時 思い出す
 126. ひも結び 我が不器用に 苦笑い
 （工作同好会で、いまさながら・・・）
 127. 手を合わせ まだ呼ばないで 阿弥陀さま
 （一身田・如来堂にて合掌。極楽浄土よりまだ
 まだこの世を楽しみたい）
 128. 見つけたよ 私のダイヤ いぬえんじゅ
 129. 歩いて5分のフィットネスクラブへ車で行く妻
 130. 絨毯の、縁につまずき、歳を知る
 131. 駅トイレ 小用直ぐ出ず 電車出る
 132. 粗大ごみ 捨てに行かねば 捨てられる
 133. バーコード 七三分けてよ 床屋泣く
 134. 名物の 関の戸求め 急ぐ足
 135. 遅くなる ライン流せど 我が家で返事
 136. 灘の酒 宮みずが知る 大震災
 137. バスおりて 目指す買い物 道の駅
 138. 灘五郷巡りすごろく 上がりは 試飲酒
 139. 春の陽に 畑起こせば カエルの眼
 140. 観察会 スマホ1台もってけば ルーペにカ
 メラも図鑑まで（らくちんスタイル）
 141. シニア観察 あれよあれ あああれねで 分か
 り合う（あうんの仲）

【 カルタ 】

201. イタドリで 痛いところを サッと取り
 202. ロウバイが 早く咲いたに 狼狽し
 203. ハスの花 散りゆく姿は 散蓮華
 204. 葉痕まで 威嚇するか ハリエンジュ
 205. シロダモの春は若葉がお化けのよう 秋には
 花も実もあるよ
 206. ヤマコウバシ、冬の林に今こそ目立つぞ枯葉
 を残して
 207. センダンハ羽状複葉、うす紫の花 冬の実は
 千個の団子をまいたよう
 208. ムクノキ縦なら 横エノキ
 209. ユリノキ芽 幾重にたたむ 折り名人

210. 名似あわず 可憐な花の ヘクソカズラ
 211. 山里に 新種発見 クマノザクラ
 212. 仲良く泳ぐ オシドリ夫婦
 213. ルーペの中、自然の美しさに、迷い込む。
 214. ジンチョウゲ おしくらまんじゅで 春を待
 つ
 215. 赤子に帰り地に帰り 我はまだと思えども
 会話は既に孫言葉
 216. 愛らしく 二重に装う ハコベ草
 217. カナムグラ 茂れる宿で 血まみれに
 218. 早乙女の 可憐な姿で 匂いはヘクソ
 219. 冬に現る かわいいひつじ 名前は怖いよ
 オニグルミ
 220. フリージャ 色と香りで華やかに
 221. 蠟梅花 雄しべが躍る 雌か雄
 （雌性期と雄性期で雄蕊の位置が変わり、自家受粉を避け
 る植物の凄さと不思議さを感じた。）
 222. 緑葉に 白いかんざし 馬酔木花
 （落葉した山の中で、ひと際濃い緑の葉をバックにして、
 まるでかんざしのように、可愛いらしい白い小花が沢山垂
 れ下がった様子が、とても美しかった。）
 223. ひつじの顔によく似てる 冬芽の葉痕 オニ
 グルミ
 224. 青空に 炎突き出す カイズカイブキ
 225. 銀杏や いのちをつなぐ 2億年
 226. こりゃうまい 桂花陳酒（けいかちんしゅ）は
 キンモクセイ
 227. 春が来たと銀の毛皮を被るネコヤナギ
 228. まだかと待ちわびるエドヒガンの里の花だ
 より
 229. 冬晴れて霧氷つくカラマツ林に心躍る
 230. 大東の夏の水辺のサガリバナ
 231. 春夏秋冬 いつも眼を惹く メタセコイア
 232. 寄生して一服しつつ、栄養補給のナンバンギ
 セル

※各投稿順に掲載しています。

※科員の投票で入選作をきめたいと思いますの
 で、良いと思われる作品を選んでいただき、その
 番号をお知らせ下さい。

選択数は制限しませんが最大10件程度を目安
 として下さい

投票数の多いものを入選作として、賞品を贈り
 別途発表させていただきます。

広報 根崎

コンクリートジャングルの片隅に咲く花になられた Y.A さんに 捧げます

4 班 大庭 健

トキワイカリソウ (常盤碇草) メギ科 イカリソウ属 *Epimedium sempervirens*

前年の 11 月までには冬芽を形成し越冬、翌年のちょうど今頃、3 月になると展開しだす。
まず花序と茎葉のついた有花茎を展開、次に根生葉を展開し、前年の根生葉と入れ替わる。
昨年 3 月に有花茎の展開を追いかけてみた。

2018.3.12



2018.3.19



2018.3.23



2018.3.28



まだ展開前の今年 1 月に頂芽の中を覗いてみた。

既に小さいながら有花茎や根生葉ができていた。

株によっては有花茎が 2 つならんだものや、有花茎と根生葉さらには予備芽(?)までそろえた株もあった。

この寒い中、とてもしたたかにじつくりと次の世代を育てている姿に感動!

以上

自然現象

1 班 遊上 眞一



シラビソ 縞枯れ現象（南アルプス聖平）

シラビソを中心に 針葉樹が、
山の斜面を 等高線に沿うように
縞模様に 枯れて行きます。

これは 病気ではなく、天然更新の
一種と 言われています。

その証拠に 地上部では、
次世代の実生が びっしりと
育っています。



スギ 梢端枯れ （香川 屋島寺）

梢端枯れとは、梢の端が枯れる事。
昔は一番上まで、水が吸い上がり
葉が生えていました。

しかし 高温・乾燥化や、周りの
環境変化などで 水脈が変わったり、
水量が減ったりしたのでしょいか？

以前の高さまで 水を上昇
させることが 困難になりました。

現在 梢端は枯れていますが、
その下は しっかり生きていますので、
ご安心ください。

冬の武田尾

4 班 岩城 正大

紅いアオザイの女

4 班 藤原 雄平



トウグミ

1 班 石川 隆一



イヌハウズキ



俳句・川柳コーナー

3 班 山上 恵子

俳句

- ・ 浮寝鳥彫られし如く動かざる
- ・ フレデイの葉を付けている冬木かな
- ・ マスクしろくしゃみがうつると夫が言ふ

川柳

- ・ 福男皆が福についてくる
- ・ 残っても宝は宝残り福
- ・ ○大生私はラインの落ちこぼれ

4 班 吉村 正克

川柳

- ・ 勝間南瓜、蔓は伸びれど 実はず
- ・ ゲンノショウコ 植えつけたのは皆枯れて、捨てた種から芽を出した

皆様のご協力により 40 号を発刊できました。ご協力ありがとうございました。

また 40 号記念の俳句・川柳・カルタの投稿、ありがとうございました。

別途、入選作を掲示します。お楽しみに！

(広報委員会)

40 号記念俳句・川柳・カルタ大会入選作・・・3/25 追記

P6、7掲載の投稿作品に対し、科員の皆様に良いと思われる作品に投票していただき、票数の多かった作品20を入賞作品として下表に掲示します。

俳句

番号	作品内容	班	作者
48	小雪舞う 落ち葉の中に 節分草	4	高原 富佐子
3	冬枯れに 萌芽と紛ふ ウスタビガ	3	福島 いずみ
5	関の店（たな） 呼び込む主は お雛さま	1	堂下 登美子
12	秋日和 落葉に消えし 登山道	2	前田 長治
38	関宿の 町家を飾る 夫婦雛	1	藤川 宗昭
1	杉玉や 酒の香漂う 春隣	1	石川 隆一
14	二つ三つ 白梅開花 阿弥陀堂	2	鈴鹿 絹代
23	寒空に 春はまだかと 梅に聴く	3	松堂 忠義
31	冬芽観て 春咲く花に 胸躍る	3	青木 茂

川柳

番号	作品内容	班	作者
127	手を合わせ まだ呼ばないで 阿弥陀さま	2	山田 勝己
131	駅トイレ 小用直ぐ出ず 電車出る	2	竹山 秀規
111	シニアと言われ 死んでたまるか 生きてやる	4	岩城 正大
121	冬山椒 翼・良〜く見よと 講師説く	2	大森 美子
141	シニア観察 あれよあれ あああれねで 分かり合う	3	大沢 金呉
114	お弁当 家庭の事情が 垣間見え	4	西村 彦二
115	観察が 終わればすぐに 主婦目線	1	華崎 律子

カルタ

番号	作品内容	班	作者
225	銀杏や いのちをつなぐ 2億年	2	武川 雄二
209	ユリノキ芽 幾重にたたむ 折り名人	4	水谷 夏子
214	ジンチョウゲ おしくらまんじゅで 春を待つ	3	濱田 嵯智子
222	緑葉に 白いかんざし 馬酔木花	3	古賀 さつ子